

おるご〜る

No.
204

男女共同参画

わこうプラン推進委員だより

固総務人権課 ☎424-9094

スマートフォンと 子育て

わこうプラン推進委員

中古賀 ゆき

最近、スーパーに行くとき気になる光景を目にすることがある。カートに乗せられてスマートフォン画面を見つめる子どもと、無言で食材を選ぶ親である。子どもがカートに乗りたがらなかったのかな？荷物も多いし、子連れでの買い物は大変だね。親としての悩みを理解しようとはしてみるけれど…。

私は以前、「買い物に行きたくない病」を発症していた時期がある。買い物に行くのが面倒なのではなく、一人で買い物に行く寂しさに耐えられなくなったから、というのがその理由。その前までは、「今日の夕食は何にしようか?」「トマトが赤いね」「美味しそうだね」と子どもと会話しながら食材を選ぶのは当たり前のことだったが、息子が幼稚園に通うようになってからは、誰とも話をせずに買い物していると寂しさが溢れてくるようで。子どもと手を繋いで、話をしながら食材を選んでいたことが、とても貴重な時間だったのだと気づかされた。そんな私にとって、一緒に買い物に来ているのに、別々の世界にいるような親子の姿はなんだか残念な気持ちにさせられる。

3年前に実話を元に描かれた絵本が話題になった。シンガポールの少年が学校の作文で、「親が自分ではなくスマートフォンとばか

り過ごしているから、スマートフォンになりたい」と自分の願いを書いたものである。絵本ではスマホを見ている親を責めているわけではなく、親の言動が子どもの安心やパワーになることが伝わる。子どもの人格形成には親の接し方、子どもとの関わり方が大切とも言われている。私もスマートフォンばかりに夢中にならず、子どもと向き合う時間を大切にしなければと気づかされた。そんな我が家では、高校進学にあわせて娘にスマホを持たせることになった。友達とのコミュニケーションツールの一つにもなり、スマートフォンが手放せなくなるだろうという不安も覚悟の上だったが、それ以上に、いつでも娘と繋がることができる安心感は大きなメリットである。自分にとっても情報収集や調べものが容易であったり、友達や仕事の連絡など生活に欠かせないアイテムとなっているが、トラブルに繋がる可能性があるのも現実問題。娘が被害者にも加害者にもならないために、プライバシーの侵害、監視、束縛、リベンジポルノなどスマートフォンの負の側面を伝えていかなければとも思う。

「今日の夕飯は何にする?」とスマートフォンで問いかけるのは今日はやめて、子どもと一緒に買い物に行ってみようかな。